



男の娘
コスプレ撮影には
用心



「…なあオッサン…コスプレモデルとは聞いてたけどこんな格好
とは聞いてないぞ…」

「良く似合ってるじゃないか♪可愛いよ♡」

「…俺は男だよ…なんだよコレ…」

「まあまあいいじゃない、お金も結構な額払う約束なんだから」

「…約束は守ってくれよ…」

「大丈夫大丈夫！写真も個人的なものだからバラ撒いたり
しないから安心してよ」

「いよいよいよいよ！ごっち見て笑って！」

（金の為とはいえキモいなあ……）



「…」
「ホラもっと表情柔らかくして！」

カシヤ

「…なあオッサン…男にこんな格好させて楽しいの…?」

カシヤ



「楽しいに決まってるだろ
君みたいな可愛い子が大好きなんだよ♪
ホラホラ次はスカートめくって♪」

「…」
(ホントキモいなあ…早く終わらないかな)



「顔と同じでおちんちんも可愛いねえ♪」

カアアア

「う、うるさい！」
「いいねその反応！」
「おじさん興奮してきちゃったよ」





「ほらほらもっと足開いてごっちに見せてよ」

「…もういいだろ…」

「まあまあいい写真が取れたらお金も弾むからさよ」

「…本当だな…?」

「うう…そんな近くで撮るなよ…」

カクヤ

パシヤ

「ハハッ

いいねえその表情

オジサン意地悪しなくなっちゃうなあ」



「ほらっ、パンツ脱がせちゃうぞ」

えっ!?

「えっ…
えっ…な、何…」

ずるっ





「な、何すんだこのクソオヤジ！」

「ほほう」

顔の通り可愛いおちんちんだねえ♡
皮もかぶったまんまで」

「う、うるさい！早くパンツ返せ！」

カアアアア



「いいねいいねえその顔
おじさんこんなかわいいおちんちん
目の前にしたら吸い付かずにはいられないよ♡」
「ひ、ひやあー!」

ひく
ひやく



「ひ、ひゃあ！
も、もう出るっ！」

あゝっ

あゝっ

ど

ひゃっ

「ははっ
こんなかわいいおちんちんでも
精子の量は一丁前だなあ
さすが若いだけあるなあ♪」
「ご、こんなキモオヤジの口で
イカされるなんて…」



「さあて次はおじさんのことを気持ちよくしてもらおうかなあ
君だけ気持ちよくなったら不公平だろ？」

「や、やだよそんなこと！
写真だけって約束だる！」



「まあ別に今帰ってもいいけど
金は渡さないし、今までの様子もビデオ録画してるしどうすればいいか
わかるよね♪」

「う、うう
このクツオヤジ…」

うん
ん

うん
ん

うん
ん



「ん、んうっ…」
「歯は立てるんじゃないぞ
もっと奥まで咥え込め！」

ん、んうっ…

ん、んうっ…
ん、んうっ…



「おおおお

たまらないねえその表情♪」

「どれ、喉の奥まで精液注いでやるから
しっかり飲み込めよ♪」





「ひひひ…」

「ごほすなよ、しっかり飲み込め」

ひ

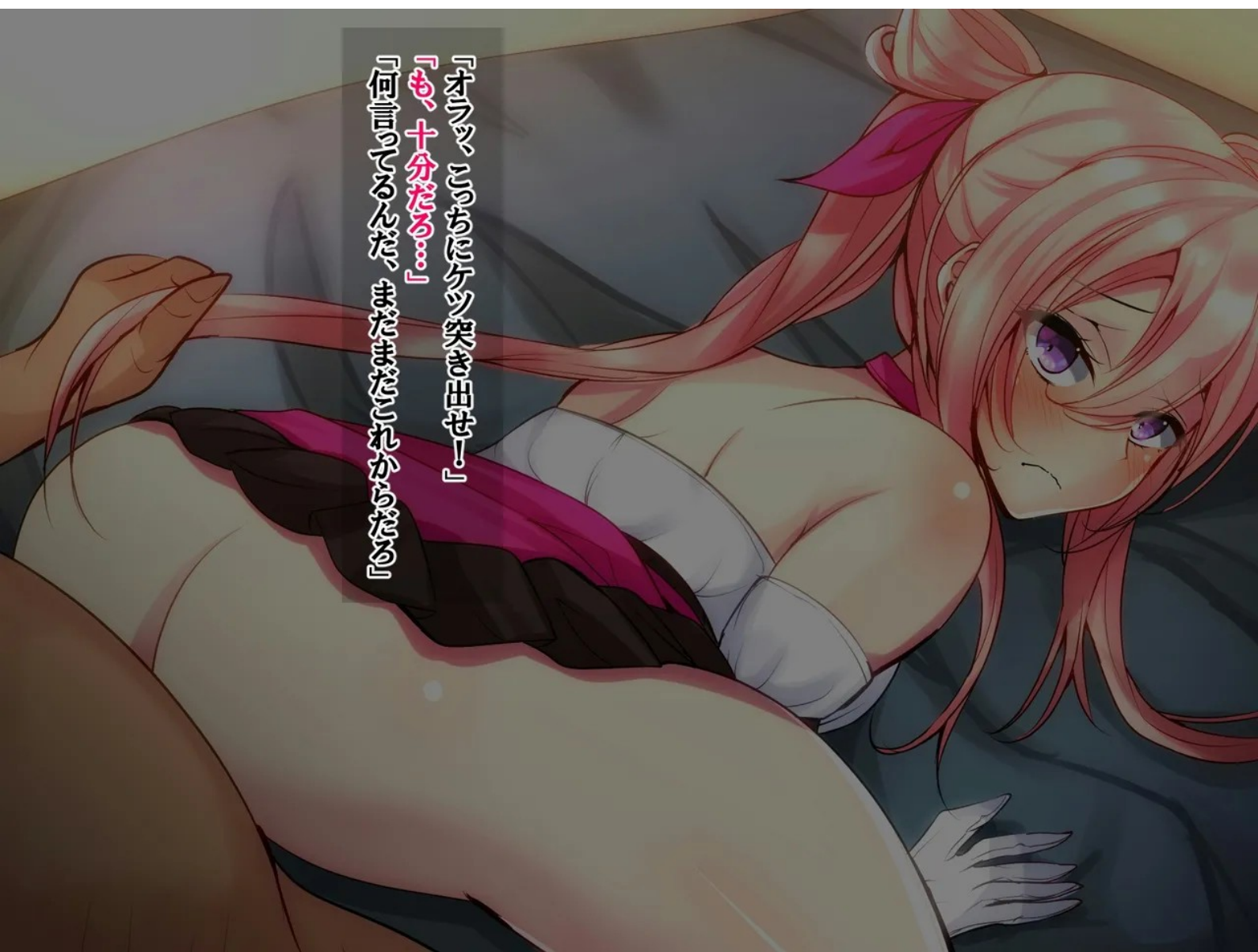
「む、無理い…」

「なんだ根性ないなあ」

ひひ

ト
ト
ト

!



「オラッ、こっちにケツ突き出せ！」
「も、十分だろ…」
「何言ってるんだ、まだまだこれからだろ」



「うーんいい格好だなあ♪」
「も、もういいだろお…」
「男の相手なんてコメンだよ…」
「まあまあそう言うなっつよ」



「ホラホラ
どうだ自分のよりずっと
デカイチンポ擦り付けられる
気分は……」
「……最悪だよ……」

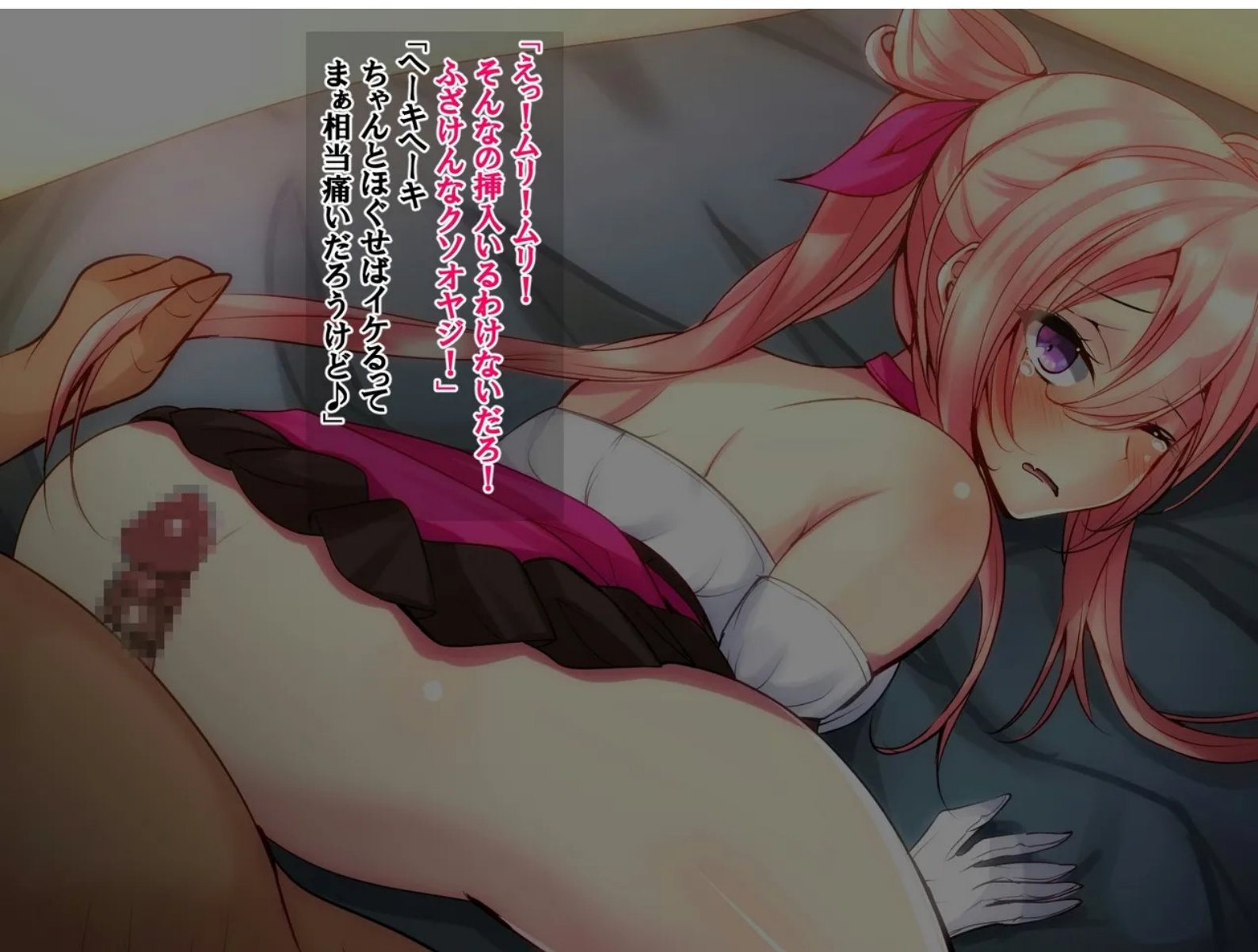
ん？



「やっぱり若いケツはいいなあ
ムチムチでスベスベで♪」
「き、キモいこと言うなあ…」



「うーんやっぱり擦り付ける
だけじゃ物足りないなあ…
やっぱりケツ穴使わないとな」



「えっ！ムリ！ムリ！
そんなの挿入してるわけないだろ！
ふざけんなクソオヤジ！」
「へーキへーキ
ちゃんとはぐせばイケるって
まあ相当痛いだろうけど」



「よしこのくらいほぐればいーだる
ほくらほら挿入れるぞお♪」
「ム、ムリっ！」
それだけはムリッ
口でも手でも使うから
それは止めてくれっ！」

「そう言うなって
ほらほら挿入ったぞ♥」
「あっ、ひっ！
裂ける！裂けるっ！」





「ははっ初めてとは思えないぐらい
アツサリ挿入ったなあ
実は自分で開発してたんじゃないかあ?」
「あっ!あっ!」
「ははっ応える余裕もないか」



「ふうっ、ふうっ
さ、さすがに良く締まるなあ…
オラッ、このまま出すぞ！」
「んっ…んっ！」



「あっ…あひっ…」
「ふう…飛んじまってるな
今のうちにみんなを呼ぶか…」



「えっ…何…なんだアンタら！」

「おっ、戻ったか」

「みんな君とヤルために集まってくれたんだよ」

「ははは、話には聞いてましたが現物は想像以上に可愛い子ですなあ」

「な、何なんだよアンタら！」

「○○さんいくら約束とはいえ
こんな可愛い子を先に一人占めとは
良くないですよ♪」



「ははっ
まあいいじゃないですか」

「警戒されないように最初は私一人で会って
頃合を見て皆さんも登場する
計画通りですよ♪」





「やっ、やめるお！放せよオ！」

「うーむ…このまま暴れられたら怪我ささせてしまうかもしれないな…」

「一旦縛ってしまえばいいでしょうか」

「ふふっ、それなら服も破いてしまえばいいでしょう」

「やめるよお！」

「な、何なんだよコレ！放せよ！」

「ふふふ

楽しみですなあ

この態度がどこで変わってメス堕ちするのかが



「メス堕ち…
ふざけんな！俺は男だよ！
男にこんなことして楽しいのかよ
アンタらは！」



「ははは、いいねえ本当に最高だよ君は
その可愛い見た目に強気な性格：
それでこそ堕とし甲斐があるって
もんだよ



「そんな汚いもん押し付けんな！
キモいんだよ！オッサン共が！」





「さあさあ
それじゃあ始めますか
ふふふどの位耐えられますかねえ
この子は♪」

「や、やめるお！
こ、こんな一度に相手に出来るわけないだろ！」

「おやおやどうしたんだい
あつという間に弱気になって」



「んっ！うぐっ！」
「ふうやっぱり若いケツは違うなあ
良く締まるわ」

「オラッ、上もちゃんと奉仕しろや」



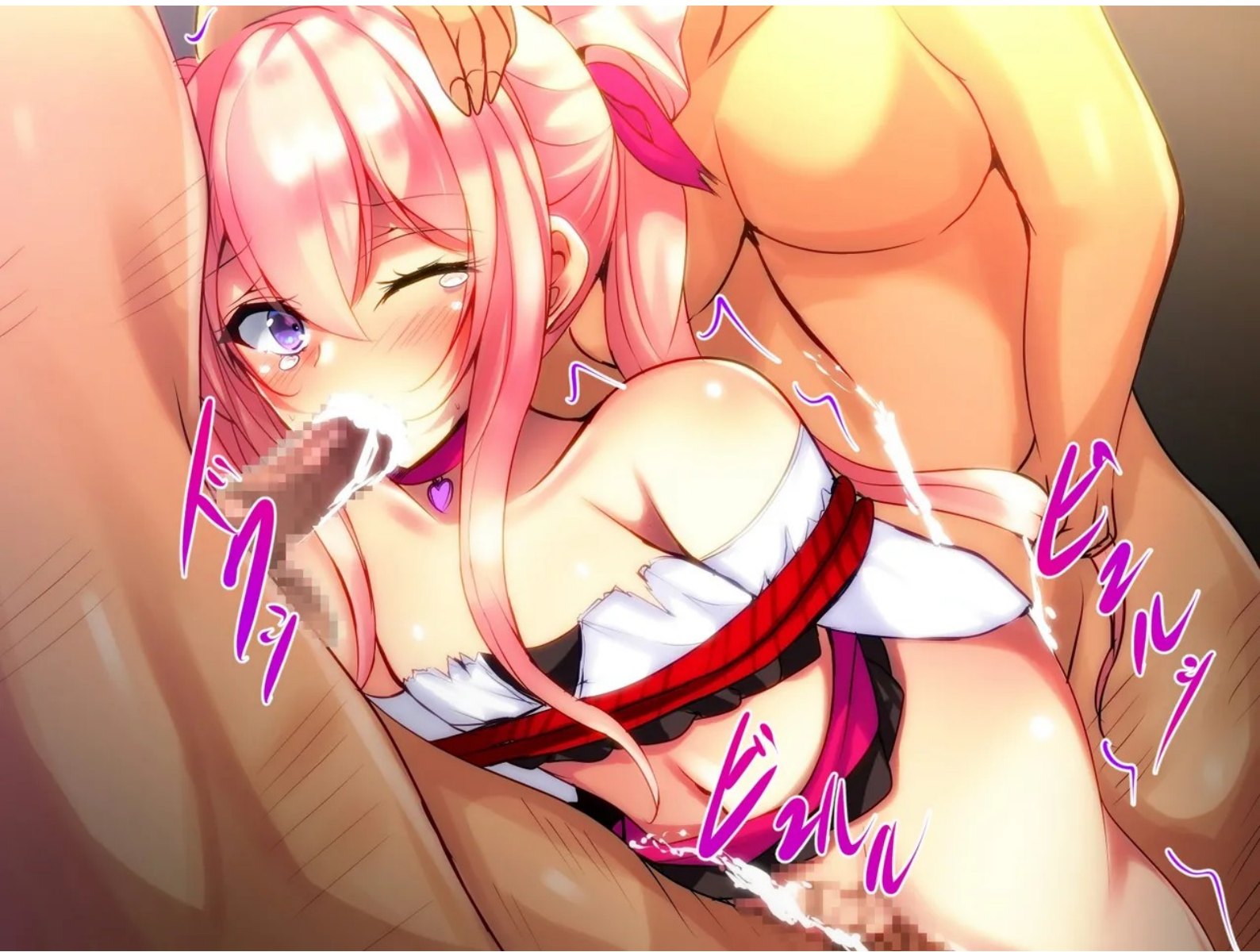


「ぐ…ぐちゅ」

「出る…」のまま出すぞ！」

「俺も出る！飲み込めよ！」







「あっ……あっ……」
「ははっこいつトロテンしたぞ
初心者とは思えないなあ」
「普通初心者はこんなアッサリ挿入んないだろ
どうせ自分でもケツ穴開発してるんだろよ」
「よし次だ次、どんどん輪姦せ！」

トロトロ……



「も、もうやめてくれ…」
「オイオイまだ始まったばかりだろ
それにトコロテンまでして本当は気持ちよくなってるんだろ？」
「うっ、そ、それは…」



「ふふっもうかなりほぐれてきてるなあ
あっさり奥まで挿入してるぞ♪」
「あっ♡お、奥に…奥まで突かれてる♡」



「あっ♡もっと♡もっと♡壊れるまで突いて♡」

「ははっ自分から求めるようになったか

本当はメスなんだろう？チンポ欲しくてしょうがないんだろ？」

「あっ♡あっ♡もうメスでいいですよ♡もっと♡…もっとお♡」

ずっ

ずっ



おっ♡

おっ♡

んっ♡

んっ♡

1時間後





「あはっ♡チンポ♡チンポもっどお♡」
「すっかり欲しがりになったなあ」
「ははっ、堕ちるのはあっという間でしたな」

















































































































